

2025年下半期 AIニュース・ベスト10

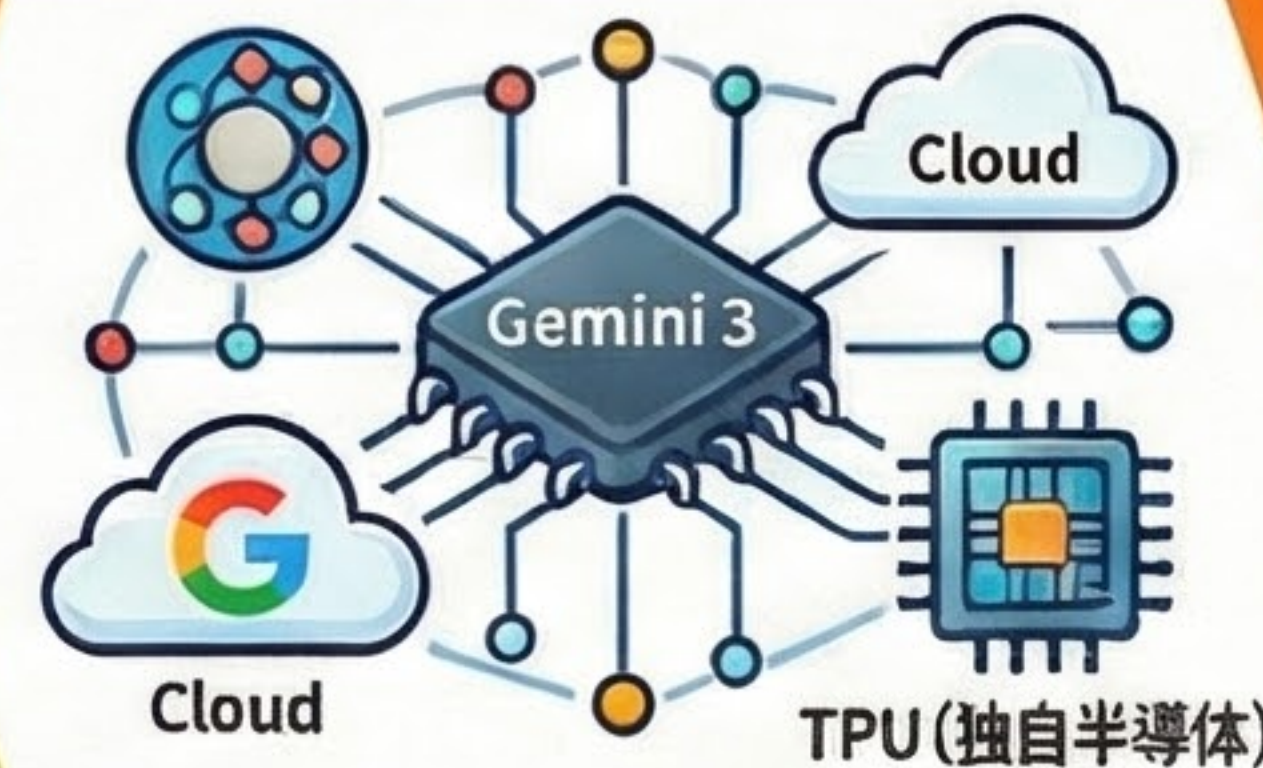
2025年下半期は、GoogleとOpenAIの競争率化を繯に、AIインフラ（電力、半導体）の確信が新たな課題として浮上、同時に、ウェアラブルAIやAIエージェントといった新技術が実用化フェーズに入り、AIをめぐるビジネスと規制の環境が大きく動いた半年でした。



3 エージェント革命の進展
AIが自動的に推察な業務をこなす「AIエージェント」技術が大きく進歩した。



4 中華AIの独自進化
米国の視制をパネに、オープン刺露と「期NVIDIA」に向けた独自半導体開発が加速した。



Gemini 3、クラウド、TPU（独自半導体）を連携させた勢力なエコシステムを推擧した。



5 「AIインフラ競争」の始まり
AIの電力消費増大に対応するため、電力確保と独自半導体開発が企鑛の重要課題となった。

10 「ウェアラブルAI」の登場
AI係携のスマートグラスなどが次々発売され、米中市場で急成長を遂げた。



Googleの猛退を受け、GPT-Sシリーズの高速リリースでトップの度を守る戦略に転換した。



9 マルチモーダルLLMの飛躍
画像、映像、3Dモデルまで生成可能になり、クリエイティブ感義に大きな影響。

6 AIをめぐる法規制の緩和
各国で産業利用を復先する「寛利優先」の動きが広まり、規制が確やかになる間向が見られた。



7 基礎LLMの「クローズド化」
先端AI開発企業の競争が激化し、最先端モデルを非公開にする動きが盛まった。



8 「AIサイエンティスト」の成長
科学技術研究の自動化が加速し、創業などの分野で実用親離に入りつつある。

? HONORABLE_MENTION



番外：「スケーリング則」の終焉？
モデルを大規模化するだけでは性能が頭打ちになるとの議論が活発化した。